

平成29年度専門指導委員研修会

日 時 12月3日（日）10時～15時 場 所 松陵市民センター

午前の部 「危険予知訓練（KYT）」について

午後の部 「バルーンアート」について

講 師 穂山 桂一さん

晴天の日曜日、松陵市民センターに11名の参加者が集まってくれました。

講師は株式会社 AsMama プロジェクト運営管理チームリーダー^{あきやまけいいち}穂山桂一さんです。

ユーモアを交えたトークで、真剣な研修会場にも時折笑い声が響いていました。



危険予知訓練、KYTとは、危険（キケン、Kiken）のK、予知（ヨチ、Yochi）のY、トレーニング（トレーニング、Training）のTをとってKYTといいます。

職場や作業の状況の中に潜む危険要因と、それが引き起こす現象についてイラストシートを使って小グループで話し合い、考え、理解を深めることで、危険が潜むポイントなどを指差唱和・指差呼称で確認し、行動するまえに危険要因を取り除くための訓練となります。



作業者(子供たち)自ら危険を探し、どう行動したら良いか考える為の手法であり、監督者、ジュニアリーダーから一方的に危険を指摘されるよりも、自分たち自身が考えることで、事故やケガを減らす効果が期待できます。

☆ 4つの人間特性

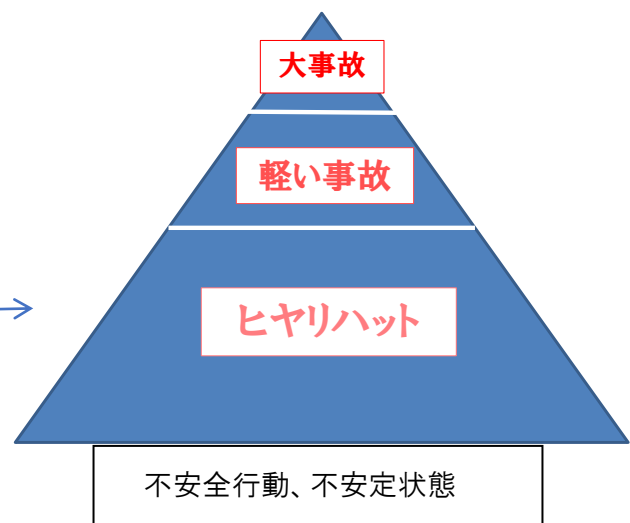
「錯覚」・「不注意」・「近道」・「省略」 ⇒ 普段の自分にとても思い当たる。

☆ H. ハインリッヒ氏の「1 : 29 : 300 の法則」

1 = 大事故 (災害)

29 = 軽い事故 (事故)

300 = ヒヤリハット (予兆)



ヒヤリハットも根本は同じ。

ヒヤリハットを100に減らすと大事故は0に近づけることができる。

さっそく、3グループに分かれて話し合いました。

第1ステップ「危険の発見（現状把握）」＝危険要因をかき集める。

イラスト内の危険要因に赤丸をします。グループで話し合うことで自分では気付かなかった危険要因がどんどん出てきます。意見が出尽くしたら、それを文章化します。



第2ステップ「危険のポイント（本質追及）」＝重大な危険を絞り込む。

かき集めた危険の中で重要と思われるものを3つに絞り、更にその中で最も重要と思われる項目を一つ決定します。その結果を話し合い、班ごとに指差唱和で発表しました。



第3ステップ「あなたならどうする？（対策樹立）」

重要危険と事故に対して、その予防、防止のための具体的で実効可能な対策を考え、それを文章化したのですが、これがなかなか難しい。。



第4ステップ「私たちはどうする（行動目標）」＝行動目標を作り、実践へつなげる。

皆で考えた対策を実践するにあたり、前向きで誰もがイメージできるスローガンを作成し、そのスローガンを班ごとに指差唱和で発表し合うことで、お互いに意識の顕在化を図りました。

過去にある子供会が企画したハイキングにて、当時9歳の少年が川へ転落死した事故があったそうです。

楽しいはずのイベントが悲しい事故にならないよう、保護者が気を付けるのはもちろん、子供達自身も事故やケガをしないよう自発的に安全に活動するために、産業界が取り入れていたKYTを参考にし、子供会KYTが誕生したそうです。

個々の意識が重大事故を防ぐ、普段の生活でも子供達にただ単に「危ない！」と言うのではなく、子供達に分かりやすいよう具体的に話したり、気付かせて、促していくことが大事だと気付きました。

参加者のみなさんは、真剣にたくさんの意見を出し合い取り組んでくれました。

ありがとうございました。

午後の部 バルーン研修



午後はカラフルなバルーンアート研修。

今回の講習で使うバルーンは260Q

膨らませた時のバルーンのサイズが260Q＝2インチの幅で60インチの長さ
という意味で、1インチ2.54cmなので、サイズとしては太さが5cm、長さが
約152cmのものになります。

まずは、空気を入れて結び、8の字輪飾りに挑戦です。



8の字に3回ねじるのがちょっと怖い～！でも思い切ってねじったほうが割れないようです。頑張って～(^)/

上手に繋ぎあわせて、お隣どうしの8の字をさらに繋ぎ合わせます。

会場に一体感が生まれました♪ 折り紙で作る輪っかより存在感ありますね。

さて、次は男の子人気の物を作ります。何ができるかな～。



くねくね。剣の出来上がり♪

この剣の応用編で、次はお花を作ります❀



お花ができてきました。皆さんお上手。手慣れたものです♪

今度はソーセージのように作っていきます。



何個かねじる時は、すべて同じ方向にねじらないと、結びがほつれてしまうそうです。なるほど！



出来上がりは、ねずみでした(^_^♪

これを応用すると犬も作れます。

最初のうちは頭が大きくなったりしますが、作っていくうちに空気配分などのコツがつかめてくるそうです。

逆算しながら胴体部分、足の部分の長さを調節するのが難しい(+_+)



たくさん作ったね☆ 両手いっぱい完成(^_^)/

穂山先生は「何度も失敗しましょう。何度も作るとベテランになれる。」と皆さんを励ましてくれました。

たくさんバルーンを作り過ぎて壊さなければいけない場面もあつたりしますが、破裂音は決していい音ではありません。

そんなときは、バルーンの端を張らずに平らにした状態にしてハサミをいれると、破裂音を立てずに、空気を抜くことができるそうです。

色々なバルーン作りのコツを穂山先生が教えてくれる度に、「おおお〜!!!」とか「あああ〜」と、納得の歓声があがります。

バルーン作りは気合と根性(笑)なんですね。

怖がらずがっしり掴んで、何度も何度も作ると、どんどん上達するそうです。



11名の参加者の皆様、お忙しいところご参加いただきありがとうございました。

また、研修会にご協力いただきましたすべての皆様、大変お疲れ様でした。

今回の研修を子供会や育成会行事に活かしていただければ幸いです。